

# 総務常任委員会会議録

[平成24年 5月 7日開催]

南あわじ市議会

# 総務常任委員会会議録

日 時 平成24年 5月 7日  
午後 1時30分 開会  
午後 3時40分 閉会  
場 所 南あわじ市議会委員会室

## I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

### 出席委員（6名）

委 員 長	熊 田 司
副 委 員 長	柏 木 剛
委 員	原 口 育 大
委 員	北 村 利 夫
委 員	蛭 子 智 彦
委 員	廣 内 孝 次

### 欠席委員（1名）

議 長	楠 和 廣
-----	-------

### 事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
課 長	垣 光 弘
書 記	川 添 卓 也

### 説明のために出席した者の職氏名

市 長	中 田 勝 久
副 市 長	川 野 四 朗
市 長 公 室 長	中 田 眞 一 郎
総 務 部 長	瀧 本 幸 男
財 務 部 長	土 井 本 環
会計管理者次長兼会計課長	馬 部 総 一 郎
市 長 公 室 次 長	橋 本 浩 嗣

総務部次長兼選挙管理委員会 書記長兼総合窓口センター統括	林	光	一
財 務 部 次 長	細 川	貴	弘
次長兼監査委員事務局長	大 瀬		久
市 長 公 室 課 長	喜 田	憲	和
総 務 部 総 務 課 長	佃	信	夫
総 務 部 防 災 課 長	松 下	良	卓
総 務 部 情 報 課 長	富 永	文	博
ケーブルネットワーク淡路所長	土 肥	一	二
財 務 部 財 政 課 長	神 代	充	広
財 務 部 管 財 課 長	堤	省	司

## II. 会議に付した事件

1. 所管事務調査について……………	4
(1) 市の総合的企画、調整について	
(2) 行財政計画について	
(3) 市有財産の維持管理と財源の確保について	
(4) 消防・防災対策の推進について	
(5) 情報化の推進について	
(6) 離島振興対策について	
(7) 国際交流及び友好市町の調査について	
(8) 選挙管理委員会、監査委員、固定資産評価審査委員会に関すること	
2. 重点調査……………	28
・コミュニティバスについて	
3. その他……………	26

## III. 会議録

## 総務常任委員会

平成24年 5月 7日(月)

(開会 午後 1時30分)

(閉会 午後 3時40分)

○熊田 司委員長      こんにちは。

きのうでゴールデンウィークが終わりましたが、地域によっては、大変な被害に遭われて今なお、その復興、復旧に向けて大変な地域もございます。被災された方に心よりお見舞いを申し上げたいと思います。

新年度になって約1カ月が過ぎました。いろいろな課題等も控えてることと思いますので、きょうの総務常任委員会またしっかりと、審議してまいりたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。座って失礼いたします。

本日、議長は体調不良により欠席する旨の連絡がありましたので、まず御報告させていただきます。

それでは、市長のよりあいさつがございます。

市長。

○市長(中田勝久)      皆さん、こんにちは。

きょうは総務常任委員会の所管事務調査ということで、大変御苦勞さんでございます。

こないだから、私もぬくなったり、ちょっと寒なったりでなかなか風邪が治らなくて、初めは花粉症かな言いよってそれがやっぱり風邪だって、ちょっと熱が出たりしましたが、これはふだんの十分な養生をしてないということで、もうこれは自己責任ということであろうと思います。きょうは、特に申し上げることはないんですが、実はこの間、熊田委員長さんから「この迫る大震災にどう立ち向かうか」というのと、それから「防災教育から生まれた釜石の奇跡、片田教授に聞く」これ一遍、市長何かのためにということで、お届けをいただきまして、先般見させていただきました。非常にこの内容については、事後の話でございますが、南あわじ市、私たちが心配しているそのものずばりが、いろいろなこのDVDの中に表現されておりました。私もずっとその見ながらメモしておりましたら、これはもう7、8枚以上ずっとメモができたんですが、やはりどうもこの中でこの片田教授が言っているのに、やはり大人が、結局おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんが、この震災に対して心配ないわというような日ごろからの話がされてると。いかに家庭でのそういう会話が大事であるかということを書いておりました。特に、その釜石小学校、もうほとんど犠牲者がなかったということで、釜石小学校を一つのターゲットに、この片田教授がずっと長年にわたっていろいろその3.11の以前にそういう教育をともにしてきたということで、ですから子供たちはやはり親やおじいちゃん、おばあちゃんの言うことを一番まずは、信用すると。先生の言うことよりかわそらそっちのほうが、一番

身近におるんですから信用する。ですがこの子供たちを教育することによって、多くの大人の命を結局救えたというふうに思うと。子供がもう絶えずどんなことがあっても逃げるんやということを、家でずっとずっと言い続けておれば、保護者の人がわざわざ迎えに行ったり、あっちこっち右往左往せんでも、あっ、あのうちの子はどんなことがあっても逃げる、逃げてくれる。そういう信頼関係をつくることが大事やということで、大変この中身について私も、なるほどな、なるほどなと各所に感じた次第でございます。

議員さんには見てもらってるの、これ。まだ、いや、絶対機会みて、見てもらったら、私もこれ職員も全部見ておくべきやというふうに改めて思っております。

ありがとうございました。ちょっと本題から離れましたが、これからいろいろ心配されるそういう、きょうもこの防災対策、中に入っております。そんなことで、また委員長の御配慮、ひとつお願いしときたいと思います。

では、あとちょっと公務が入ってますので、また中座させていただきます。

○熊田 司委員長           どうぞ市長、公務のほうで退席。

では、ただいまから、閉会中の継続調査として申し出てあります所管事務調査事項8件について、一括して調査したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○熊田 司委員長           異議がございませんので、8件一括して調査します。

なお、本日は所管事務調査終了後、7月に行います視察研修の事前調査も兼ねてコミュニティバスについての重点調査を予定しておりますので、この件については後ほど集中して調査したいと思います。所管事務調査に入ります前に、まず執行部へ所管の確認をしたいのですが、大学誘致について市長公室と企業誘致課で業務分担があるようですので、市長公室の部分について、説明をしていただけますでしょうか。

市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）           担当いただいております大学応援プログラム推進担当ということで、特に大学との本体との調整であったり、今後地域と連携するにあたっての方向性を見出したり、また各教員の方々と地域との方向性を見出したりということで、その辺のところを中心に担当をさせていただきます。

以上です。

○熊田 司委員長           大学誘致について、我々、総務常任委員会の所管は先ほど説明のあった市長公室の受け持つ部分ということにしたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたい

と思います。

それでは、所管事務調査全般について、質疑のある方はお願いをいたします。

質疑、ございませんか。

蛭子委員。

○蛭子智彦委員       今の大学応援プログラム推進ということで、既に細目協定のほうは結ばれたのでしょうか。

○熊田 司委員長       市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）       4月1日付で細目協定書を締結させていただいております。

○熊田 司委員長       蛭子委員。

○蛭子智彦委員       その内容は以前見せていただいている案のようなものあったかと思うんですけども、何か変わりがありますか。

○熊田 司委員長       市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）       変わりはありません。

○熊田 司委員長       蛭子委員。

○蛭子智彦委員       そうしたら今後具体的には、どんな課題を持ちながらこの一年間進んでいこうと。具体的にはどんなことがイメージされておられますか。

○熊田 司委員長       市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）       各方面から御心配をいただいております生徒をいかに確保するか。それから4年後の就職先をどういうふうに応援していくか。それから先ほども申し上げましたように、先生方、教員とも含めて地域の農業振興あるいは、地域活性化にどう役立てていくかの連携を深める手法について、検討に入りつつあります。

以上です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 文科省の認可が10月で、それまでの間は、大学が開校できるかどうかということとはできない限りは、学生募集はできないということだったかと思うんですね。生徒確保のための取り組みということは、本格的には10月からになるけれども、アンケート調査のようなものを既に配布をしたりとか、具体的な動きをしているということであったわけですが、今具体的にどんな取り組みをされているかということについて、大学側がということだろうと思うんですけども。それとあと、市のほうがやっつてることと2点。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 今、述べていただきましたようにアンケートもとらせていただいておりますが、きょうも淡路島の校長会、高校の校長会に行つてまいりまして、あくまでも今現在は計画中という表現でございますが、御説明をさせていただきます。また、過去2回、各高校を回らせていただいて、計画中の内容について説明を申し上げ、また御意見を賜つてきているような状況でございます。

以上です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 それ、大学側がということですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 大学と市がともに回つております。以上です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 大学と市とが一緒に行くということなんですが、その大学独自の努力というのはどんなことされてるのでしょうか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 今現在、担当部署を数カ月前からきちつとつくりまして、

それで、今までいろんな積み上げの中で、パンフレットの制作であったり、また教員の確保であったり、それからいろいろと回るに当たりまして、その準備であったりを今されております。また、つけ加えてその後も大学の臨時講師、非常勤講師ですね、眞山神戸大学名誉教授とともに、神戸大学の農学部を回りまして、十数名の非常勤講師、神戸大学の現役の教授ないしは、准教授等にごあいさつに回らせていただいたり、また京都大学の現役の先生方とも今調整段階に非常勤講師として入っております。

以上です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 今は、そういうあいさつに行ってるということですが、主に行ってるのは学生募集ということで行ってるのは、淡路島内に限られてるというようなことですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 先ほど述べていただいたように、5月末に本申請を行います。それから10月末をめどに許認可をいただくような調整で入っております。許認可後でないとは正式には募集ができないということですので、今現在はごあいさつ、あるいは計画中の内容について、説明に上がらせていただいております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 なかなか厳しい日程ということなんですけども、そのアンケート取ったりとか、その学生アンケートは構わんということであれば、こういうアンケート調査もっと全国的にやるとか、あるいは近畿圏、四国、あるいは中国地方、主要な実績のある大学に対してアンケート調査をとるといようなこともしておるわけではないんですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 現状におきましては、2千数百名程度のアンケートをとらせていただいておりますというふうにお伺いしております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 それは、淡路島内だけではないということですね、もちろん。近畿圏、

中国、四国をターゲットにして、高校に対して送ってるということですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） そのとおりでございます。件数その他については、まだ手元にはありませんが、今大学側からは島外も含めて校数はわかりませんが、取っているというふうにお伺いしております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 その他の大学、吉備国際大学ということで支援をするということについて、幾つかのプランというのがちょっと考えられてるということだったかと思うんですけども。今検討されていることは、どんなことがありますか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 市との連携ということでよろしいでしょうか。地域との連携という。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 どちらも含めて。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 大きく3つ考えております。

1つは、地域連携ということが1つ。

それから、産官学連携ということが1つ。

それから、高大連携。高校と大学との連携というのが1つであります。

地域連携につきましては、農業振興等を含む今現在の地域そのものの活性化、農業振興をどうしていくかということについて、ともに研究会を立ち上げ行っていくということでございます。

産官学連携につきましては、今、京大、神戸大学の名誉教授の先生方入っておりますが、そのネットワークを活用させていただきながら、企業さんとも組みながら、地域での連携がなにかできないかなということなんです。

それから、高大連携につきましては、高校を回らせていただく中で、地元高校のほうから、教員あるいは大学との連携もしながら、レベルアップをしていきたいというような御要望もいただいております。それを進めていきたいというふうに考えております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 もう少し突っ込んで例えば、入学金の助成をすると、奨学金を検討するという話もあったんですが、それはもうないんですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 現在検討中でございます。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ですから、僕が聞いたかったのは、その大学誘致に当たっての応援プログラム推進ということで、応援プログラムの全体像をお伺いしたかったんですが、今3つほどかなり抽象的なお話があったわけですけども、もう少し具体的なことが検討されてるのかなと思ったんですが、今聞いたところでいくと、2つ奨学金の話と、それから入学金の助成の話ということは検討してるということだったわけですけども、その他にはないんですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 今、抽象的に申し上げましたが、例えばですけども過去、私も農政携わっていたときあったんですが、タマネギの収穫期、これはその当時は農協さん、技術センター、普及センターさん、そのときは4町であります、技術者が組んで国庫補助をいただきながら、メーカーとくんで、新しい機械を開発しようというような形で、実現したものでございます。一気に2,000台普及したわけですけども、そういうものを想定しながら先生方の中には、企業さんといろいろとパイプが太い先生方がいらっしゃると思いますので、それを活用しながら、産官学連携でいろんなことができないか、ということも今検討に入りつつあります。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員　　もうちょっと様子がわからないんですけども、これは、どこで検討してらるんですか。その市長公室担当としてやってるのか、それとももう少し幅広い方をお願いをして、集団的にやってるのか。どのような形態で今やっておられるんでしょうか。

○熊田 司委員長　　市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）　　昨年の12月に、農協、酪農協、普及センター、技術センター、それから大学側、それから主要中心になる先生方入りまして、懇談会を開催し新年度まだ立ち上げてないけども、研究会を立ち上げて具体的な連携手法を組み立てていくというような形で合意をいただいています。その中で京都大学、神戸大学の先生方に御協力いただける方々が、水面下で今いろんなごあいさつも回りながら調整に入っております。

○熊田 司委員長　　蛭子委員。

○蛭子智彦委員　　今、懇談会、やっとなるんですか。

○熊田 司委員長　　市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）　　いま一度開催をさせていただいております。

○熊田 司委員長　　蛭子委員。

○蛭子智彦委員　　それは何という名称の懇談会ですか。

○熊田 司委員長　　市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）　　大学連携に関する懇談会ということで、立ち上げさせていただいております。

○熊田 司委員長　　蛭子委員。

○蛭子智彦委員　　もう一度、構成団体少しゆっくりと言っただけですか。

○熊田 司委員長　　市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 農協さん、酪農協さん、技術センターさん、普及センターさん、それから大学、大学の中心になっていただける教授陣でございます。今、まだ調整中ではありますが、その先生方も京大、神戸大学系の先生方が多いので、その会もたまには京都大学あるいは神戸大学へ会議室を借りて、いろんな形でやってみようというような案を今固めつつあります。以上です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 これは、インフォーマルなものなのか公式なものなのか、またこの会議の費用弁償など、どんなふうな形態でやっておられるのか。どうなってるんでしょうか。大学が主導するものですか、市が行っていくものですか、どちらですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 今現在、大学の中に地域連携センターというものを立ち上げようとしております。これは大学が主体的な形でございます。市としては、やはり地域の活性化あるいは農業振興からそれらをリンクして、まず実動部隊の組織とともに、今後具体的にどういうことをしていくべきかを、研究を重ねて一つでも具現化していくような方向に進めたいというふうに考えております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 これは、いわゆる市の附属機関になるんですか。それとも何かの研究會なんですか。どういう性格のものですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 附属機関ではございません。一つの研究調整機関ということですが。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 主催はどこがやるんですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 今現在は、市及び大学とともに連携しながらというふう  
に考えております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 市及び大学ということなんですけれども、研究会と。市も参加者の一  
員であると。いわゆる逆に言えばそういう組織があつて、負担金を払って参加するよう  
な組織であるという理解ですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 負担金を払っていただいているということは、今現状として  
は考えておりません。それぞれの分野で活躍の方あるいはそれぞれの組織の担当の方に集  
まっていいただいて、まずは今後大学との連携あるいは、その延長上として農業振興地域活  
性化のために、地域がどうすべきかということを考えていく、一つの勉強会として位置づ  
けをさせていただいております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 だから負担金を払う、市が主催をして市がいろんな経費を持って開催  
をしていくという組織であるということですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 財源につきましては、大学誘致推進協議会に予算 200  
万円を通していただいております。それから、県のほうにあわじ環境未来島構想の一つの  
一環として今からではございますが、事業申請をしながらいくばくかの財源を確保しよ  
うと考えております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ということは、附属機関でないと。一方で今後いわゆる実行委員会的  
なものとして、研究会を継続していくものであると。主催は市であると。呼びかけの主体  
は、市であるということですね。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 事務局として、市はなります。当然農業振興あるいは産業振興とあわせて、農業振興は当然観光も絡んできますので、それらの部署とともに先ほど申し上げた団体さんと勉強会をしながら、具体的に今後農業振興あるいは地域活性化につながる施策を考えていき、また国や県それから独自予算で、できるものは何か一つずつ具体化できるようにもっていきたいというふうに考えております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 参加が農業関係者と大学の教授陣とあと南あわじ市だけですね。その例えば先ほどの大学誘致推進協議会のメンバーさんも入ってくるんですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 推進協議会のほうには、アドバイザーとして中心の先生方、教授陣になっていただける先生方3人お入りいただいております。またオブザーバーとして県民局、技術センター、普及センターも入っております。その方々とともに協議会メンバーのうち団体組織でございます、主要4農業団体、あるいは研究機関の方々と御協力をいただきながら進めていきたいというふうに考えております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 大学誘致を進めてきた会がございましたね。会長が近藤さんですか、そこの関係はどうなんですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） それと連動した研究会というふうに考えております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 そこに入ってもらおうということですか。それとも並列的かというとのはおかしいな。そこで懇談会あるんだから、そこに入ってもらってともに議論を進めていく

ということでない、何かおかしいような気がするんですけど。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 今現状においては、協議会の連動、下部組織というのはちょっと語弊があるかもしれませんが、そこで研究をしながら具体的なものがあれば、諮っていきたいと思いますし、また独立して予算を確保できるような具体化できるような事業があれば、実践として現地で行っていきたいというふうに考えております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ちょっとわかりにくいんですけども、結局その連携、方向性がまだ模索中であると、具体的にはね。これからいろいろ実践を積み重ねながら、その産官連携、地域連携というようなことの柱を、今後具体的につくっていきたいという現状であるという理解をするわけですが、それでよろしいですか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） それで結構です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 実際には、大学認可申請が5月末ということですので、もうカリキュラムというのもほぼ決まっているであろうということですから、ちょっと立ちおくれというような印象があるわけですがけれども、10月をめどにということ、なかなかその何をどうやっていくのかということが、模索の中で学生募集をするということ、なかなか苦しい展開ということでちょっと心配もするわけですがけれども、頑張っていたきたいと思います。

終わります。

○熊田 司委員長 柏木副委員長。

○柏木 剛副委員長 いろいろお聞きしときながら、結局わからないんですけどね。例えばいろいろその生徒募集なら生徒募集のことについて、動きがあるんならその辺の手ごたえはどうなのかとかいう感触、あるいは産官学で研究しているならどういうことが見え

てきたかとかね。もう少し具体的に、何かやっていますだけしかではなんのこっちゃわからんのですが、逆にその住民としてどういうことができるのかということ何も言えない状況で、ただやっています、やっていますというだけで、もう少し例えば生徒募集については、手ごたえはどうか、2つ目、産官学について何が見えてきたのか、どんな課題が見えてきたのか。もう少し具体的にもうちょっと言えないんですかね。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） 先ほども申し上げたように、入りつつあるということで、今、先生方とどういう方向で進めていくか検討に入っているような状況です。例えば、産官学連携の中では、ある先生は植物病院、植物クリニックをつくったらどうだと、いわゆるいろんな検体を持ち込みながら、それらについて分析をし、今後どのような薬物、農薬ですねを使えばいいのか、またどういう対応したらいいのかということの研究材料として連携ができないかという案も挙がっております。その他にもいろいろ上がっておりますが、今現状においてはあくまでも、検討段階というふうに進めていくかというベースがあって、それから具体的な案を集約していくということになるかと思えます。

○熊田 司委員長 柏木副委員長。

○柏木 剛副委員長 例えばJAが入ってる、酪農も入ってる、だったんならそれなりの意見とかいうのか、少しは見えてきてないんですか。もう何も言えない、見えてきてるのかそれともあるいは何も言えないのか。何かその辺がもう少しせっかく長いこと質問してるのに、そればかりなんで、ずっと聞きながらそう思ったんですけれども、もう少し具体的にもし見えてきたことあればね。あるいはもう一つ期待の学生の手ごたえとか、校長会に説明したとか。島内の学校にいろいろ説明したときの手ごたえ的な話とか、何かそういう感触だけでも結構ですけどね。何かそういうのぜひ私ども住民としては、聞きたいんですけどね。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） まず生徒募集につきましては繰り返しますが、やはり認可をいただいて以降でない、正式には募集ができないという状況であります。それ以前に募集をするということについては、ちょっと差し控えるべきというふうに考えております。しかしながら、私も各高校を島内回らせていただきました。先生方には非常にいいことだということで、御助言、御支援の言葉をいただいたところもありますが、やはりどう

いう資格をとれるのか、あるいは就職先はどのようなところを目指すべきか。それから、農学部、理系ですので、それらへの対象が文系と比べて少ないというようなところもございます。そういう意見もいろいろと具体的にはいただいております。そういう中で、今後大学との調整をしているところではありますが、具体的にどう進めていくかを詰めているような段階でございます。

○熊田 司委員長        いいですか、よろしいですか。

      では、ほかに質疑ございませんか。

      蛭子委員。

○蛭子智彦委員        大学誘致について、いろいろまだ漠然とし過ぎて、ちょっと質問が方向性がちょっと出せないんですが、次に、消防団の関係で少しお伺いしたいことがあるんですが、今、消防団の団員さんは一般的には、大体年額8,000円ぐらいの活動費というようなことになってるんですか。

○熊田 司委員長        防災課長。

○防災課長（松下良卓）        消防団員の報酬のことと思います。南あわじ市では、今、蛭子委員おっしゃった8,000円、年額8,000円につきましては、一般団員の方々の報酬金額です。一つ肩書が上がって班長になりますと1万3,000円。部長で1万8,000円。あと副分団長は3万円。分団長で5万円。専任分団長で7万円。方面隊の正副隊長さん方、それと市の専任の副団長2名はそれぞれ9万9,000円。団長、市の団長は11万6,000円という団員報酬になっております。

○熊田 司委員長        蛭子委員。

○蛭子智彦委員        それで、実際に出動した場合の、例えば少し聞いた話なんですけれども、遠くにおって、四国とか明石におって緊急に帰ってこなあかんようになったりした場合とかの、そういう出動経費というのか、こういうものは全然今ないというふうに聞いておるんですけども。それはどうなんでしょうか。

○熊田 司委員長        防災課長。

○防災課長（松下良卓）        出動手当というのを、年額になるんですけども、1,500円、それと手当に関係しましては、あと訓練手当が年間1,000円です。

以上です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 こうした決めというのは各市によって違うんですか、それとも共通してるんですか。

○熊田 司委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 各市によって異なります。出動手当とか訓練手当というのを1回当たり幾らというように定めている他市もございます。以上です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 昨年は、ぼやがあつたり放火があつたり、かなり回数出動されてたと思うんですけども、やっぱりそういう実際の活動に対してやっぱり一定のその経費の負担というか、これが必要になるんじゃないかなというふうに思ってるんですが、その点いかがですか。

○熊田 司委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 昨年度23年度は、かなり不審火があつて地域の消防団の方々にも夜間かなりの期間警備を、パトロールをしていただきました。それにつきましては、補正予算で計上させていただいて、各分団のほうにそういう活動費的な部分をお支払いをもうさせていただいております。これは特別にそういう活動期間があつたということで、各分団のほうには補助させていただいております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ちなみにどれぐらいの基準、どんな基準ですか。

○熊田 司委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 1日1人当たり300円の基準で、補助をさせていただいております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 ちょっと低過ぎるんじゃないかなと。それでやはりその夜間に出る。あるいは仕事休んで出る。仕事をやめて出る。こういうことも地域に対する奉仕的なこととしてやられてるわけですから、そういう高い志の中で動いていただいているわけですが、少しそれに見合う、もう少し見合うものにするべきでないのかというふうなこと思うんですけども。この点もっと検討なり、いろいろ今後も災害についての緊急出動等々も結構あると思うんですね。常にもう防災の要として消防団動いてくれてるわけですが、地域によっては、高齢化の中で団そのものの運営も難しいというような地域もあるように聞かれていますけれども、若い方々に対してもやっぱりもう少し厚みを持って、今後そういう防災対策としてするべきでないかというふうに思っているわけですが、その点いかがでしょうか。

○熊田 司委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） そういう手当関係につきましても、ちょっと他市の例も確認もさせていただきながら、そういう特別に警戒に当たるとか、昨年の不審火の関係とかいうのと、またそれから災害のときに特別に長期間活動していただくというようなことについても、若干こちらのほうでも研究もさせていただきたいというふうに思います。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 本当に志の中で動いてくれているという部分が、消防団の哲学として、非常に大事な点だと思うんですけども、やっぱり隊員いろいろ時代も変わっていったのもありますので、高い検討をお願いしたいというふうに思います。  
この点はこれで終わります。

○熊田 司委員長 では、ほかに質疑ございませんか。  
北村委員。

○北村利夫委員 いわゆる市有財産の維持管理というのは、所管事務に入ってるんですけども、この市有財産の維持管理に年間どれぐらい費用をかけてるんですか。

○熊田 司委員長 答弁。管財課長。

○管財課長（堤 省司） 市有財産の施設の維持管理の経費を御説明申し上げさせていただきますと、法令によります維持管理等も含めまして、浄化槽の保守でありますとか、エレベーターの保守、あと施設の電話の保守等々庁舎の清掃等含めまして、ちょっと古い数字ですけども、21年度におきましては6,950万円程度の維持費、業務委託料ですでございますけれども、庁舎関係で委託を維持管理経費として、引き落としております。以上でございます。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員 いわゆる市有財産の維持管理ということは、いわゆる各庁舎も含めた中での維持管理費、これはあくまでも委託した金額ですよ。というのは、その施設というのは年々やっぱり老朽化していく。ということはいずれは、建てかえとかいわゆる統廃合、逆にもうつぶしてしまうものいろいろ出てくるわけですけども、そういう費用というのは全然いわゆる年度ごとには見てないということなんですか。

○熊田 司委員長 管財課長。

○管財課長（堤 省司） 各庁舎の修繕費という形で予算化いたしておる部分がございますが、そういったもので維持補修をして長期化、延命化を図るというふうな考えで予算化してございます。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員 そういう費用も含めて幾らぐらいになるんですか。

○熊田 司委員長 管財課長。

○管財課長（堤 省司） 24年度の予算で財産管理費という形のもので、5庁舎のものでございますけれども、約9,070万円でございます。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員 こないして、いろいろな項目で出てくるんやな、これ実際。そうしたら総額で何ぼになる。市有財産の維持管理費。

○熊田 司委員長 管財課長。

○管財課長（堤 省司） 今申し上げましたのは管財課所管にかかる5庁舎の分でございまして、各学校、福祉施設等々につきましてはそれぞれの所管におきまして、予算化してございます。現在ちょっと把握、私のほうからは申し上げることがちょっと困難でございます。以上です。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員 いわゆる縦割り行政、横割り行政やないけども、ほんでも予算案にはちゃんと全部出てきてるわけなんや。ほんまは積算すればわかってくるんやろけども、ただ今言われたように、いわゆる修繕をしながら、長寿命化を図っていくということなんですけども、ただ修理したからそれが長寿命になるかどうかというのはクエスションの部分結構あると思うんですよね。応急手当の分、大改造の分出てくる。そやから、そこらの区別分けというのは、どのようにされてるんですか。

○熊田 司委員長 管財課長。

○管財課長（堤 省司） 当然、鉄筋コンクリートの建物というふうな定義になりますと、法定の償却期間がおよそ50年というふうに提示されてございます。その期間は大規模修繕までは必要ないであろうという、失礼、その間に機能の低下が起こってございます。空調機でございませうとか、ほか照明もろもろ、給排水等々大規模改修がその中に1回程度は大きなものが入ってこようかと思えます。その間が要は25年もしくは30年スパンでそういったものが、回ってくるというふうに考えてございます。以上です。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員 そういう考えのもとに、予算を組み立てていくと。計画的に組み立てていくと思うんですけども、ことしはそういう形で小学校の場合やったら、福良の場合、大規模改修やりますよという形になってくるんですけども、ただそこらの、いわゆる何年ごと、大体10年で外壁塗って、吹きつけ直しするとか。20年で内装のやりかえをするとか、そういう計画の工程表というのはもう作成、ずっとされているんですか。

○熊田 司委員長 財務次長。

○財務次長（細川貴弘） 今、委員のほうから代表的な例として小学校、これはかなり大規模な改修等も毎年毎年行っておりますけれども、教育委員会部局を例にとりますと、工程表といいますか計画表、年次ごとに作成はいたしております。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員 終わっておきます。

○熊田 司委員長 ほかに質疑ございませんか。  
原口委員。

○原口育大委員 入札のことで、何か毎回毎回しつこいと言われそうなんですけど、若干聞かせていただきたいんですけど、まず、今いろいろ改善、半期ごとに改善される中で、ランダム係数いうのをまだ継続されてるわけなんですけど、ランダム係数を入れた目的というのはもう一度お聞きしたいんですけど。

○熊田 司委員長 管財課長。

○管財課長（堤 省司） 最低制限価格の設定につきまして、ランダム係数という形で市内業者だけで、行う入札につきましてそういった係数を設けてございます。市外に比べて、最低制限価格を上げるというふうなプラスのパーセンテージの数字でございますが、それを一定の数字ではなくて、毎回入札ごとに変わっていく不規則な数字としてございます。その導入の目的といたしましては、このランダム係数がない場合、積算がかなり正確になってきますと、最低制限価格というのを数式を公表してございますので、その公表式をその工事現場に当てはめると、最低制限価格の数値がびたりと正確に算出できるという場合がございます。そういった場合、同じ落札、応札額が重なってくる、重複するというふうなことで、くじ引きになるわけでございますけれども、そういったことを避けようということで、ランダム係数というものを導入した経過がございます。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 くじ引き、結構やと思うんですね。その抽せん、ランダムの抽せんされて落ちる人に見たら、その正確な数字をせっかく出した人が何ぼかおって、あとはくじ引きで落ちるのはしゃあないですけど、ランダムで数字変えられて失格してしまう

というのは、何かちょっと落とされるほうにしたら、全く腑に落ちないと思うんですけども。そういうふうな考えにはなりませんか。

○熊田 司委員長 財務部長。

○財務部長（土井本環） おととしは8月の下旬のその入札が、非常に過度な争いをしたと。入札自体が、本来それでいいのかというふうな中で、事務局のほうとしては考えたその手法でありまして、おっしゃられるとおり、今500万円以上の工事については、万円単位、それ未満については千円単位で最低制限価格を算定しておりますので、当然くじ引きもやっていただいたらというふうには思います。そういう中で、今回4月にそのランダム比率を0.5から1.5までの範囲に縮めた。経過措置とそういう手法に変えるための経過措置として4月から9月までを試行の期間として現在やっていると。当然、委員おっしゃられるようなことを念頭におきながら、こうした4月に改正をしたということでございますので、御理解を賜りたいと思います。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 過度な競争という部分は、その今言うた端数を切ったことで表面的にはその50円の差とかそういうのはなくなったわけで、それで過度な競争と言われとった部分は、端数をある程度処理する、丸めることでクリアできてると思うんですよね。市内業者育成だったら、一律上乘せすればいい話で、それをランダムに乗っける必要はないというふうに思ってます。あくまでも痛くない腹探られるのいややから、絶対抽せんにランダムにしとけば、万が一どこかでもれたことがあっても、そらそれが受注につながるわけではないというふうな感じは僕としては受けるんですけども、やはりせっかく積算とか一生懸命やられてますので、今方向としてはなくす方向でいってもらってるように思いますので、ぜひそれをお願いしておきたいなというふうに思います。

それともう1点、入札で例えばその工事の設計に対して質問等が出ることがあると思うんですけども、例えばこの設計で大丈夫なかなみたいなことを聞かれたときに、それを答える立場というのが、例えば学校施設とかやったら教育委員会の中の担当課だと思うんですけども、そこら辺の専門性というか、何か十分でないような気がするんですけども、そこら辺質問が出たときのその構造的に大丈夫かとか、いろいろ聞かれたときの対応というのは、何かその専門的なアドバイスができるような体制というのはあるんでしょうか。今のところ何か担当課に任せっ切りなような気がするんですけど。

○熊田 司委員長 財務部長。

○財務部長（土井本環） 先ほどの万が一漏れるということは、私のほうではないというふうに思っております。それからただいまの、設計に対する質問でございますが、建築関係でございますので学校の場合は、前年度に設計士さんに委託をして大規模改修なりを行っておりますので、そうした専門的な業者からの質問があれば、当然、設計をお願いした設計士さんにそうした質問を提示してそれで対応をどのような手法にするのかというふうな回答をしているのが現状でございます。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 予定価格が漏れることはまずないと、絶対ないと、それは僕も思うんですけども、それだったら何もランダムにする必要ないというふうに私は思っていますので、そういう方向でお願いしたいと一つは思っています。

それとその今の設計の部分ですけども、これ小さな例なんですけど、どこかの学校のバックネットの何か補強する工事を発注したときに、業者のほうその入札したい人のほうから、その設計で大丈夫なんかという質問がいったと。というのはその補強する部分の材料とかを、そのメーカーに問い合わせると、それではもたん言われたので聞いたという話なんです。それで聞いたら担当課のほうは、その設計のとおりでやってくれという返事やって、それではちょっと心配なんで入札を控えたみたい話を聞かされたことあるんですけども。そうすると、もし後で不具合とか何か、その部材を販売してるところがこれではもたんというやつを、その設計どおりやからいうて仮に使ってやったとして、何かあったときというのは、それは設計した人のところに責任がいくんでしょうか。施工したところには関係ないという考えでよろしいですか。

○熊田 司委員長 財務部長。

○財務部長（土井本環） それは、ケース・バイ・ケースやというふうに思います。ただそういう事例を挙げられましたが、現実はその卸をされてる業者の方が、実際その場所を見てその品物じゃもたんと言うておられたのか、それは不明確やというふうに私は思います。ただ、そうしたことについても、設計士がバックネットの場合はどういう形をとったのか詳細には私はわかりませんが、設計士がついておれば別段問題ないんじゃないかなというふうに思います。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員        その設計をした、で、それで発注しとるわけなんで、業者としてはそのとおりやって、納めればもうそれでええと思いますし、もし何かあったときに原因調査されて、設計上問題があったとなったら、施工業者でなしにやっぱり設計されたとこの責任かなというふうには思うんですけども、それを明確にやはり説明できるような、部署というか僕、担当課がそれぞれ今発注しよる状況ではなかなか専門的なアドバイスというか、回答までできにくいような部署もあるんちゃうかなと思いますので、そういう部分をぜひ専門性というか、補強するようなこともぜひ何か考えていただいたほうがいいんじゃないかなというふうに、要望しておきたいと思うんですけども。

○熊田 司委員長        ほかに、質疑ございませんか。  
蛭子委員。

○蛭子智彦委員        簡単なんですけども、友好市町なんですけど、全然この間交流というか、こういうものがちょっと感じられないんですけれども、どんな取り組みをされてるんでしょうか。

○熊田 司委員長        市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）        今、予算を上げさせていただいて小額ではありますが、友好市町と交流をするのに2分の1補助ということで、50万円ほど上げさせていただいてます。前例としては、ここずっとです合併後ずっとですけれども、基本的には新日高町ですか、との交流が主になっているというような形です。

○熊田 司委員長        蛭子委員。

○蛭子智彦委員        友好市町何カ所ありますか。

○熊田 司委員長        市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）        葛巻、糸魚川、大野、それから平取、新ひだか、それからセライナだったと思います。

○熊田 司委員長        蛭子委員。

○蛭子智彦委員        忘れてしまうぐらいの状態になってるということが、ちょっと残念な

と思うんですね。ですから、やはりせっかく歴史の中でつくられたものということであれば、やっぱり大事にして、それからまた新たに例えば、ちょっと聞いた話では、人形、東北のほうに淡路の人形座が福島だったかな、行ってそこで交流をしてつくったとか、こんな話があってそこと友好市町結ぼうかという話があったけども、実らなかったというような話もちょっと聞いたことがあるんですけどね。やはりそういうものというのは歴史を掘り返していけば、もっと広がるものであって、それを通じていろんな交流も図れたり、友好していく意味があると思うんですけども。本来友好市町の意味って考えたときには、やはりもうちょっと努力せんあかん部分があるんじゃないかなと思うんですけど、いかがですか。

○熊田 司委員長            市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）            やはり行政主導ではなく、住民主導で交流が進むように何とか支援をできる範囲で、していきたいなというふうに思っております。  
以上です。

○熊田 司委員長            蛭子委員。

○蛭子智彦委員            友好市町ですから、行政主導の部分もいるんだろうと思っております。  
終わります。

○熊田 司委員長            ここで、暫時休憩をいたします。  
再開は2時40分とさせていただきます。

（休憩 午後 2時27分）

（再開 午後 2時40分）

○熊田 司委員長            それでは、再開をいたします。

ほかに質疑のある方、ございませんか。

質疑がございませんので、質疑を終結いたします。

次に、その他に入ります。その他で何かございませんか。

ないようですので、この後重点調査を行いますので、先に執行部のほうから報告事項がありましたらお願いいたします。

防災課長のほうから。

○防災課長（松下良卓） 資料はとどいてますね。

○熊田 司委員長 すみません。資料のほう、配付させていただきます。  
いいですか。そうしましたら、防災課長。

○防災課長（松下良卓） 今、お手元にお配りをさせていただいておりますのが、南あわじ市内の沿岸部の自治会、また自主防災の代表者の方々が、5月16日から18日までの間、南三陸町へ研修に行く。それで、17日の日に午前10時から南三陸町の会議室で、南三陸町の災害前また災害後の自主防災組織の活動のあり方等の意見交換会をさせていただくという計画で、16日は18時から出発をしまして、車中泊ということで17日の午前10時から南三陸町でそういう研修をさせていただいて、あと午前中は研修をして午後からは、町内へ出向いて被害状況等の説明もさせていただいたりというような研修をさせていただくという計画でございます。参加者は今現在30名の方々、一番最後のページに掲載をさせていただいておりますが、30名の方々とあと事務局等で、参加をしてくるというようなことでございます。それで、帰ってきましたら、この参加者の方々が各自主防災の組織の中でいろんな今回の行ってきた体験談を、地元で報告もさせていただいて、よりよい自主防災組織のあり方について、研修を重ねていただきたいというような思いで、参加をするものでございます。  
以上です。

○熊田 司委員長 廣内委員。

○廣内孝次委員 伊毘、阿那賀、丸山の間入ってないんやけど、あそこらは防災組織はできてないんかな。それとも都合が悪いんかな。

○熊田 司委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 今、廣内委員申されましたように、伊毘、阿那賀、丸山の自主防災の方々にもお声をかけさせていただきました。どうしても御都合が悪いというようなこともありまして、今回は不参加というような形になっております。

○熊田 司委員長 ほかにございませんか。  
ほかに執行部のほうからは、連絡事項ございませんか。  
それでは、所管事務調査全般についてはこれで終了いたします。

あと、副市长、市長公室長、市長公室次長、市長公室課長だけを残して、そのほかの方は退席ということで、お願いをいたします。

暫時休憩いたします。

(休憩 午後 2時43分)

(再開 午後 2時45分)

○熊田 司委員長        それでは、再開をいたします。

      コミュニティバスということで、重点調査を行います。

      質疑ございませんか。

      蛭子委員。

○蛭子智彦委員        委員長のほうにも出されているということなんですけども、きょうはしづおり号のルートちょっと見てきたわけですが、それぞれのバス停の乗車人員という実数というのは出ますか。すぐに。

      22年度になるのかな。23年度はまだですか。実数がすぐ出たらそれを見ながらと思ってるんですが。

○熊田 司委員長        その資料はございますか。

      市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣）        しづおり号の月別の乗車数でよろしいですか。

      23年度ですが。バス停ごと、停留所ごとに。

      いいましょか。そしたら。

○熊田 司委員長        いや、しづおり号だけでいい。

      そうしましたら、コピーをしていただいている間に、質問ありましたら。

      蛭子委員。

○蛭子智彦委員        それぞれ、私どもきょう、乗って見たんですけど、皆さんしづおり号乗られた経験があるかと思うんですけども、その乗ってみての印象残ったこととか、気づいたこととかありましたら、ちょっとそれぞれ皆さんからお聞きしたいんですがいかがでしょうか。

○熊田 司委員長            市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎）            私は、西淡庁舎の商工観光課からこちらのほうに平成20年だったと思います。来たときに、イの一番に乗らせていただきました。私の自宅の周辺にはバス停は一切ございません。ですから、庁舎に通勤ということになりますと、陸の港西淡まで自家用車で行って、そこから、この警察、南あわじ警察署前までバスに乗らせていただきました。

バス停があれば、最寄のバス停から、乗りかえをしてでも、この庁舎にどれぐらいの時間がかかるのかというところを、確認したかったわけなんです。陸の港まで乗用車で行ってそこで少し待って、ここへ来る。非常に長い時間かかって、通勤をしたことを覚えております。乗った感想ですが、やはりふだん自家用車で通勤しております。その景色とは全く違う景色が車窓から見えたというようなことで、バスに乗ると新たな南あわじの景色風景が見えたのかなという印象が残っております。

以上です。

○熊田 司委員長            あと市長公室課長も手上げられてましたんで。  
市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和）            特に、しづおりに限定した話ではないんですが、特にせい太くん乗らせていただいたときに、旧西淡地区は非常に定着しているように、ほかの3つと比べて感じました。特に、高齢者の方が乗りおりされるときに荷物を、乗客の方がおろすのに手伝ったりしてるのをちょっと目の当たりにしました。非常にいいなというふうに感じました。それから、運転手さんと話中で、やはり沼島、灘の高校生が乗る便ですね、行き帰り。これは何としてでも今の現状を維持しながら、その便をというように感じました。

それから、長くなってごめんなさいです。ある駅に歩き方がちょっとゆっくりした高齢者が来られて、その横に若嫁さんと孫さんでしょうか、ひ孫になりますか横について、おじいちゃんを送りながら、バスに乗られてました。要は、若嫁さんが車で乗せるのではなくて、そういうふうに見送りに来られてる方もいらっしゃるんだなど。つくづく感じたのは、いろんなところからいろんな御意見をいただいております。しかし、やはり高齢化が進むについて、足をいかに確保するか、若嫁さんなり家族の方が送ることによって、送る方が仕事を休んだり、また用事ができなくなって、送るという作業が出てきますので、何とかこのコミュニティバスですね、当然改善の必要なところは改善しなければならないとは思いますが、絶対必要かなというふうに感じました。

以上です。

○熊田 司委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） 私も、市長公室のほうにかわってきまして、まずダイヤを確認して、それで出勤できないかしたんですが、朝早く出勤すれば、何とかこの警察署前までは来れるんだなというふうな確認できたんですが、帰りがどうも早退をしないと帰れないというふうな実態がありました。やはりこのコミュニティバスにつきましては、できるだけ多くの方々に乗っていただきたいということになると、ルートが長くなって、どうしても便数が減ってしまうというような欠点がございます。これは、これからの検討会議だったりその辺でこう協議をするところだと思います。

過日、新人職員研修で、なないろ館から陸の港経由でこの中央庁舎まで帰ってくるものがございました。その中で、私も同席をしておりましたが、なかなかしっかりした新人職員の方がおられて、ぱっとおばあちゃんの横に行って、いつも利用されてるんですかというような質問されておりました。そうしたら週2回ぐらい娘の家に行くんですが、非常に便利にされてもらってますというようなお話も聞かせてもらいました。

非常に今、南あわじ市というか淡路島はそのマイカーの文化がはびこっておるわけなんですけど、高齢化率もまだまだどんどん上がっていくような状況の中で、このコミュニティバス、どういったら、市民の皆様方に広く利用していただけるか、今後の課題かなというふうに考えております。

以上です。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 いろいろ貴重な御意見伺いました。副市長はどんなふうな利用経験ございますか。

○熊田 司委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） たびたびではございませんが、2回ぐらいは乗りました。これはもう交通弱者の方々をやっぱり救うためには、何としてでも確保していかならんという、我々は観点から乗っておるわけでございますので、市民の皆さん方の数多いその要望には、なかなかこたえ切れないというふうなことは思いますが、できるだけ市民の皆さんがたの利便性を高めていくということで、今後もやっていきたいなと思っております。

○熊田 司委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員　　大体共通した思いだろうと思うんですけども、また後でそれぞれの方からの質問もあろうかと思うんですが、今いただいた資料なんですけれども、大きな開きがあって拠点となるようなところと、そうでないところというふうにあるわけですが、こういったものはどんなような見方をされておられますか。

○熊田 司委員長　　すみません、蛭子委員、もう少しだけの絞った質問をしていただけたらと、答弁のほうもしやすいのかなと思いますので。

○蛭子智彦委員　　結局、開きがかなりありますよね、それできょうちょっと乗ってみて、無理してこう回ってるかなという印象をもあったところもあるんですね。それは一つは二宮保育所なんですけれども。あの二宮保育所というのは、前のバス停ですか、あれはなぜあそこにあるのかなというちょっと印象があったんですけど。それなぜですか。

○熊田 司委員長　　市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣）　　詳しくはちょっと私もこのルートについては、来る前からでき上がっておりましたので。ただ今回このバスの重点調査ということもありましたので、私も事前には停留所ごとでの乗りおり何かも見させていただいておりました。ただ少ないからといって、ただその前後の関係等で、前後の関係それからその停留所間隔その辺の間隔で、今、委員がおっしゃられた二宮保育所なんかは、あるのかなというふうに思います。ただ全くゼロなんで、例えばこれをなくしてしまっても、そんなに走行時間全部の影響するものではないと思います。二宮保育所でなしに、違うルートがあるのであれば、そういうのも今年度、地域公共交通ネットワークを考えていきますので、その辺の停留所の乗降者数も大いなる参考になろうかと思えます。

　　以上です。

○熊田 司委員長　　蛭子委員。

○蛭子智彦委員　　そこがゼロだからということではなくて、細い道をわざわざ中に入っていなくても、県道端にあってもええんでないかなと。県道端につくった場合に昇降するときに交通の妨げになるとかいろいろ理由があるのかなと思ったりするんですけども、ちょうどあそこはもともとは、掃守、淡路交通の掃守のバス停の近くでもあるので、今何かその淡路交通の関係で、つくれないのかな、あるいは県道の交通問題の中でつくれないのか、その理由がちょっとわからないんですけどね。何か本当に細いこうかなり運転手さ

んも苦労して細いカーブを曲がったり、障害物避けて行ったりようなことをして、かなり時間がかかり過ぎるみたいな感じもあったんですけども、そこら辺がずっと改善されらんとしとるのかなど、その理由がちょっと知りたかったんですけど。乗ってみて初めてわかったんですけども。そのあたりわかりませんか。

○熊田 司委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） まず当然、県道でございます。以前聞いたことがあるんですが、淡路交通さんなんかあたりでも、国道の縦貫線であるとか県道なんかで、そのバスの停留所のための何というんですか、車を一時とめるような待避的なそういう場所が、あるほうが良いというようなことは、聞いたことがございます。そういった意味で、県道沿いではなかなかそう一たん停車がしづらいようなことも考えられます。

あと、路線バスというんですかね、そういうのもコミュニティバスの場合には、ルートを決定する際には、影響してきますので、ここらあたりも今おっしゃられたように、今回の地域公共交通ネットワークを考えたときには、これらの貴重なデータをもとにして、検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○熊田 司委員長 では、ほかに。きょう、視察行った感想等も含めて。  
北村委員。

○北村利夫委員 ルートの見直し等も検討されてるんよね。このときには、利用者の声が、優先されると思うんですけども、ただ毎日これバス運転してる人いてるよね。その人らはアドバイスいうんか、その人らの意見というのは、徴収することあるんですか。

○熊田 司委員長 市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣） 今回大きな見直しをするというようなことで、まず市民の方にアンケート調査をしております。それから、らんらんバスに乗り込んで、その利用者の声も伺っております。それと淡路交通のほうにも乗り込んで利用者の声を聞いております。今、委員さんがおっしゃられた運転手なんかはずっと運転をしておりますので、いろんな状況を把握されておりますので、今のみなと観光が受託をさせていただいておるわけなんですけど、そこらも貴重な意見になろうかというふうに考えております。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員            ということは、そういう人たちからも意見は、徴収するということな  
んよね。きょうも、ちらっと中でお客さんいてないときにお話してたんですけども、やっ  
ぱりこれ何でこういうとこへ回るのかなというような、いわゆる毎日運転してて、これ僕  
らの仕事やから、どうのこうのということじゃないんやけども、これはやっぱり市民のい  
わゆる利便性から言うても、これは、余りにもちょっとおかしいないうようなところがあ  
るといような意見があったわけです。具体的に言うてましたけどね。そやからそこらも  
やっぱり住民を考えて。それと狭い道多分一方通行かなと思うようなところもあるよね。そ  
やから対向になったときに、これなったら多分どっちがバックするのか何するかという  
話出てくると思うんやけども、そこらのいわゆる道幅との兼ね合いもやっぱり考慮する必  
要があるのかなという気はきょうはしたんやけども。どのように思われますか。

○熊田  司委員長            市長公室次長。

○市長公室次長（橋本浩嗣）        当然、運転手さんはルートについても何でやると矛盾も  
感じておられるというところは、あると思います。そういった意味で今回見直しに当たり  
ましては、やはり一番何ていっても毎日運転してて、矛盾点を感じておられるんで、  
そこらはお客さん目線とはまた違った意味でお聞きしたいと思います。時刻のダイヤにつ  
きましても、今年度一部見直しをしたのは非常にダイヤが厳しいような状況があります。  
何と言いましても、コミュニティバスにつきましては、安全面も第一優先にしていく必要  
がありますので、先ほどおっしゃられたように道の狭いところはそこらもできれば広い道  
を通れるほうが安全面、それから無理した運転速度を強いる必要がございませんので、そ  
こら十二分に御意見をお聞きしたいというふうに思います。

○熊田  司委員長            北村委員。

○北村利夫委員            それと、きょう乗ってみて初めて、いわゆる緑のバス停、パーキング  
エリアのところ、あれ一たんとまって、緑の庁舎へ行って、即またパーキングエリアに戻  
るよね、緑の。ただあそこ行って、上のバス停に乗って行くんやろけども、先ほど次長言  
ってましたように、帰りいうたらやっぱりタクシー呼ばなしゃあないかなというような感  
覚よね。そやから何でとまって行って戻ってという話やねんけども、ここら何でそないな  
ってんのかなというのもあるんやけども、これはどういう形で、ほんまに2分か3分で、  
またバスが来るんやねあれ。帰りの。もうちょっとかかるか。5分もかからへんと思うん  
やけども。もちろんそこらも、きょう乗って、これは矛盾しとるよなと。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） さっき、委員のほうから御質問がありました乗務員に対してのアンケート調査もう既に昨年の11月、12月2日に回収をさせていただき、確かに毎日毎日、日々お客さんと直接顔を合わせて、ハンドルを握っておる乗務員さんでございますので、ここらの意見も一つにまとめてあります。これらも今後の新ルートの作成のときには、大いに活用したいなど。その中で、先ほど蛭子委員がおっしゃっておいりました、二宮保育所のあたり、この辺についても乗務員さんは、詳しく述べられております。当然、外に出ないということで、はっきりとアンケートには答えていただいておりますので、この辺は大いに参考になるのかなというふうに思います。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） よろしいでしょうか。すみません。それから先ほど御指摘もいただきました、まち中とそれと2車線のきちとした道ですね。例えば阿万バイパス、あそこのバイパスを通れば非常に安全で、見通しもいいという部分はあるかもしれませんが、これはちょっと極端な話ですが、やはり旧県道を通ることによって、住民の方々が乗りやすいという部分があって、御指摘のように私も乗って数カ所ですね、本当にもう道幅いっぱいのところあります。やはり集落の中を通過してほしいというところもあったようでございますので、そこら辺をどうこう加味しながら、変更ができる範囲でしていくかというところかと思えます。

以上です。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 私の場合は、きょうはちょっと1便早い上りに乗せてもらったんですけども、始発から女子高生2人と途中から多分後期高齢者の方3人と一緒になりまして、男の人3人と大分話をさせてもらいました。まず、運転手が大変親切であると。それとそれぞれ免許ももってないんで、免許を返上したものにとっては、絶対に必要でありがたいということでした。1人は沼島の人でここ2カ月ほど毎日、八木病院まで通ってる人で、ほんまに助かるという話でした。あとの人は丸山の人と三原の人やったんですけども、まず丸山の方は、八木病院へ通うのに朝6時半に丸山のバスに乗らんことには、八木病院8時15分に来られへんと。そうすると起きるのが5時半とかいう話でした。これは大変、丸山から八木まで行くのに1時間半、1時間45分かかっているんですけど、乗り継ぐわけですけども、これはやっぱり効率悪いなというふうに思うんですけども、そこら辺この人

は助かってると、時間は十分あるみたいなんやけども、ちょっと気の毒な気がしたんですけど、そういう点はどういうふうに思いますか。

○熊田 司委員長 市長公室課長。

○市長公室課長（喜田憲和） これはやはり便数、台数との兼ね合いそれからシステムのあり方によってくると思います。それからこの表にありますように、先ほど御意見が出ましたように、主要なところと、そうでないところいわゆる病院買い物その他というところで、ありますので、それを加味して予算との比較というところも出てきますので、その許容範囲を探すという作業が今から必要になってくるというふうに考えております。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 やっぱりデマンドみたいなことも話したんですけど、デマンドにすれば、ドア・ツー・ドアでただし電話で予約して、何人か、たまるまでというか4、5人なら4、5人できて、それでルートを選んで走るということなんで、その話したらそのほうがええという話やったんですけど、そういうこともぜひ今言っていた検討の中に入れて、単にそのバス停言うバス停方式、時刻表様式だけは解決しない問題やというふうに思うんですけども、いかがですか。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 当然、デマンドとこのコミバスの組み合わせというのが、今後の大きな重要な課題になってくるのかなと。洲本市が今、実証実験をしております。上灘線これをあらかじめ登録制で、3人以上集まればデマンドバス、デマンドタクシーですか、出しますよとその結果が出ております。なかなか3人が集まらない、それと予約時あらかじめ電話入れるのがおっくうやというような実際にそういう声もあって、なかなか乗車の人数がふえなかったというような結果がつい先日新聞にも出ておりました。この南あわじでも、デマンドを利用できる地域と逆にデマンドを採用すれば、余計に手間がかかる。例えば今現在、さんちゃん号、うずしお号、すいせん号この3つのバスは、かなりな人数乗っていただいております。これらをデマンドにすれば、乗車するお客様に迷惑がかかるのかなと、ということであれば、しづおり、あるいはさんちゃんが今比較的少ない状況、こちら辺をこの路線バスじゃなしに、デマンドでカバーする方法も一つの案かなというところ、当然デマンドになりますと今現在の、約5,000万円から若干の上乗せというようなこともありますので、費用対効果も十分見定めた上で、新のシステムこ

れを考えていく必要があるのかなというように思います。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 当然のことで、通勤通学の時間帯の路線とかバスとかと、そのデマンドというのはやっぱり違うと思うので、それを組み合わせると。鳥取の伯耆町あたりは、ずっと前からその組み合わせでやっていますし、ぜひ参考にしてほしいなと思いますし、それと一々予約どうのこうのいう部分は、例えば通勤通学じゃなしに、その病院とか行く人はある程度もうあらかじめ、予約入れると。毎回電話するんじゃなしに、もう予約入れて対応してるところもありますので、もう自分の計画がはっきり1カ月してるんだったら、もう1カ月、それは1週間単位か、1カ月単位かということありますけど、予約を受け付けるということにすれば、かなり利便性は上がるというふうに思います。

それと西淡庁舎、この丸山の人は西淡庁舎で用事があるときに、乗って行くとそのまま次のバスに直近のバスに乗ろうと思ったら15分しか乗らないという話でした。15分ではなかなか仕事ができないので、それがあかんと今度はまた1時間以上待たなあかんというような話もありました。そこら辺も目的でこう来て、なかなかその用事を済ますだけの時間がないというのも、それは場所によるんですけど、そこら辺も加味してほしいなと。

それとショッピングセンターというか、量販店もかなりの数があって、それぞれ前まで行くこと中へ入るとことあるみたいですけども、今、敷地の中までバスが入ってるところと入ってないところあるかと思うんですけども、どういうふうになってますか。

きょうの乗った人の話やと、マルナカ以外は全部入ってくれると。そこだけ入ってくれへんので、松美橋でおいて、歩かないかんと。道を横断せなあかんので、荷物を提げて高齢者は大変やと。何とか中へ入るような話が業者とできないものかという話やったんですけども、あとのところは全部何か、ジャスコにしてもみな、ららウォークにしてもパルティにしても入ってるらしいです。それはそこだけできてないというのは何か要因があるんでしょうか。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） あくまで量販店、それから病院、ここら辺については施設の中にバスを乗りこまさせていただいていいのかどうか、その了解をとる必要があると思います。特に中林病院なんかでしたら、逆に前でとまっておったやつを、駐車場でバス停つくっていただきたいというような申し入れがありましたので、乗り入れをさせていただいておるんですが、あくまでその所有者の方との交渉ということで、私も原則的には施設の中までそういう量販店、あるいは病院等については施設の中まで入らせていただけ

ればなというような考え方でおります。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 きょうの人の話やと、パーティが入るようになったのも、若干おくれ  
て入るようになったと。その原因は円行寺でおいた人が事故に遭ったので、それから入る  
ようになったというふうに、その人の解説やったらそう。だからやっぱり事故に遭うま  
までというのでなしに、今のまだできてないところは、1回業者と話してもらって、もし可  
能であればやはり乗り降り、乗り降り直後というのがやっぱり危ないんで、やっぱり落ち  
ついて乗り降りできるという意味では構内に入ったほうが安全やし、お客さんの負担も少  
ないんで、そういうふうにぜひ個別、具体的にになりますけど、話を詰めてほしいなとい  
うふうに思うんですけど、やっていただけますか。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 当然、25年4月からのルート改正についてはその辺も  
見直していきたいというふうに思います。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 それと手を上げて乗降車できる区間というのは昔せい太くんバスの場  
合あったと思うんですけど、これは主要幹線ではなかなか難しいと。今でもそういうエリ  
アというのはあるんですか。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 今現在も、せい太くん号の一部の区間と。せい太くん号  
のすべての区間じゃなしに、一部の区間でそのフリー乗降制というところを採用しており  
ます。当然これについては、道路幅でありますとか、交通量この辺警察と協議の上この区  
間であればいいよというようなお墨つきをいただいて、そういうフリー乗降というような  
形をしてます。せい太くん号のお客様に対しては、非常に好評であります。できるところ  
は、すべてフリー乗降制というのを採用したいのですが、あくまで警察との協議というこ  
とになりますので、その辺は今後も協議を詰めていきたいというふうに思います。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員            どうしても利用者は、病院とショッピングセンターというのがかなり多いというふうに聞きました。その人の話やと、灘から、沼島から来てる人なんですけど、路線によってはジャスコの前通るけど、ジャスコにはとまらないというバスがあると聞いたんですけど、やっぱりそういうところは、ちょっとできる動きかどうかは考えてもわらなあかんねんけど、やはりおりたい人のニーズというのはかなりあるように思うので、素通りせずに寄るといことも考えてほしいんですけど、その人の話でそない思ったんですけど。それは別に前通るから今は仮にルートの中に入ってない、停留所としてはなかって、追加するのはできるん違うかと思うんですけど、そういうことはないですか。そういうふうにバスの中で聞いたんですけど。

○熊田  司委員長            市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎）            うずしお、すいせん号で、中林病院まで行って、私どもが委託をしております業者さんの車庫へ中林病院から行くということは、回送ですね。回送するとき、地元沼島の方々から陸の港まで回送でどうせ行くのであれば、乗せて行ってほしいというような要望がございました。過去に。みなと観光さんのほうにお願いすると、回送でどうせ陸の港へ行くのだからということで、そういうニーズのあるお客様については、対応はいただいております。ただ、途中はどこもバス停ではとまらないというようなことを当時お話をしておったように聞いておりますので、あくまで委託しておる業者さんの御厚意でイオン前も通るといような解釈をいただければというふうに思います。

○熊田  司委員長            原口委員。

○原口育大委員            前にも1回言ったことがあるんですけど、そういう病院とかショッピングセンターというのは、やはり自前で送り迎えしてるとこも、病院の場合あるみたいでバスが来てくれるというのはやっぱり病院にとってもプラスのはずなんで、そこで何人おられたとか何人乗ったというのは記録として残るわけなんで、そういうことであれば、ちょっとある意味協賛金求めるようなことも含めて、一つの宣伝にもなると思うんでそういうことも考えたらどうかなと思うんですけど。そういうことしません。

○熊田  司委員長            市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎）            自主財源の確保ということで、今、らんらんバスにつきましては1社広告をいただいております。窓にその広告を張りつけて、乗客の方に周知を

しておるわけなんです、当然そういう量販店、あるいは病院等申し出がございましたら、そういうスペースは十分に確保しておりますので、今後そういうところにも少しは働きかけていきたいというふうに思います。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 最後ですけども、今言ったのは広告の募集ですけど、協賛金もらって、その乗降客に応じて協賛金もらうようなことしてもええん違うかなと思ったんですけど。それと最後に、公共交通会議の中で利用者の声というのを、結局大部分の人が免許証を返上したような人でなしに、現役のドライバーの人が大部分で協議してるんで、もうちょっとその免許証返上したような高齢者の意見の比率を上げてほしいと、その人はそういうふうに言ってましたので、そういうさっきの運転手の声もそうですけど、利用者の声というのをもっともっとですね、かなりやってるとは思うんですけど、もっと吸い上げるというふうなことを要望しておきたいと思います。

終わります。

○熊田 司委員長 ほかに、柏木副委員長。

○柏木 剛副委員長 このデータもらったんですけども、これは全体的には4便、下りなら下り、4便なら4便がトータルになってますけど、多分時間帯によって相当もうちょっとその実態的に見たほうが、例えば昼だったらほとんどこれ、オールゼロという格好なんですわな。だから時間帯によって、相当行き先とか降り場所が違うんじゃないかというふうに思うんですけど。それで、私はもうちょっともうこれどうのこうのという話はあるんですけど、やっぱり室長が最初に言われたように、やっぱりもう目的別のその濃い運行と、あとはやっぱり目的というのははっきりしてるんですねもう大体、交通弱者は買い物に行きたい、あるいは病院に行きたい。あと学生、高校生とかは、通学したいという話もなるかと思うんですけどね。ほとんどが限られてるんで、その時間にあわせて行って帰ってという格好で、まずは一つの目的別にもう本当に絞りに絞って、しかも停留場所も相当数絞って、それであとはもうデマンド。例えばどこか親戚に行きたいとか何かきょうは行きたいとかあれば、それはもうデマンドで対応すると、何かもうそういう方向でない、もう明らかにもう昼間走ってみて、乗るのは結局は何かたまたま何か大阪の人が女性ですけど来て、月に1回何かパーキング前に来てるとい、その習慣があってそのときにたまたま会ったんですよ。それでなければ2人乗りでしたけどね。ゼロですねもう。要するに空っぽで走ってるのと同じ状態ですからね。しかも乗ってみたらやっぱりいかにもほんまに無駄に走るといいうことがよくわかって、思いっきり時間がある余裕のある人が、も

う目的が多少一つあったとしても何か買い物してる様子でもなかったですけど、よっぽど暇な人がぶらぶらするのに乗るぐらいで目的に合わせて走るとという足になってる感じは全くしないので、その時間帯をうまく見て、ここへ買い物へ行く、10時に開くなら10時に行くような格好にする。病院は病院の9時ごろにつくように行くと、本当に目的を絞るという濃い循環バスと、あとはもうそれこそ、そのときのスポット、スポットのニーズにあわせたデマンドバス。こうしないともうこれはぐるぐる1日8便行って帰って行って帰ってやって、どれほどほんまにその無駄なことしてるかなということ、よく実感しました。外から見るのとやっぱり中に入ったらまた違う面があるので、これはこれだけのバス停があります、ありますと言ってもほとんど関係なしに通り過ぎて、しかも延々と迂回しながら通るわけですから、これは利用する、まともに利用しようとする人は本当に大変だと思います。

ちょっと私、感想だけで、いろいろとあるんですけど、細かいとこ言えばこの停留所の中でも本当に、この乗りおり見たら本当に44あるうち、5つぐらいがポイントになってるんですよ。だからそういうポイント、ポイントの時間帯を決めて何時何分にどこそこという格好で、相当これ無駄が回収しないという感じはしました。だから、はっきりとした目的がこのデータで読めるとすれば、目的別に貸し出すと。そしたら乗る人は乗ると思うんです。

無駄な走りをせずに。もう直行するわけですねそこへ。そういう格好のやつをもう少しできないかというのが思います。

ちょっと感想だけ。

○熊田 司委員長 感想だけでよろしいですか。

ほかに。北村委員。

○北村利夫委員 基本的なこと、お聞きするねんけども。見直しすると言うてるんですけども、この5ルートというのは、これはもう固定なんですか。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） はい、20年から24年度まで5年間、このルート。これは今、柏木委員さんが御指摘いただきましたように、目的別ではなくて地域別のルート。これを重視した、今ルートになっておると思います。このルートありきで今検討はしておりません。委員の皆さんの御了解をいただければ、また新たなルートを新しくつくる。あるいは、飛ばすバス停もあってもいいんじゃないか、それから新しくデマンドの組み入れ、それも今検討の最中でございます。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員 今検討の最中ということやけども、これはいわゆる庁舎の建設を見据えた中での見直しですよね。僕は、そのときにもっときめの細かいというのは、これからどんどん高齢化していく、先ほど言いよったふしに免許証の返上、しかもこれから増えてくるだろうということの中で、逆に言うたらこれちょっと入ってしまうかもわからへんけども、庁舎と一緒に、新庁舎できたときにいわゆる市民交流センターができると。そのそこで、いわゆるまちづくりの大きな柱になっていく。ほなそのときに、そこでその地域ごとでのいわゆるこの交通弱者対策というのが、その交流センター内で検討してええもんかどうか。いわゆる市としては、この5ルートをずっと回していくんやと、これからずっと。その中でギャップが出てくるん違うかなと思ったりすよね。先ほどの、柏木委員の感想も、いやひよっとしたら交流センターの中でそういう話し合いができれば、いわゆるひよっとしたら解決できるかもわからん。いうふうに思うんやけども、ここらについての考え方を伺いたいんですけども。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 25年4月からの見直しということで、当然新庁舎の建設、それからこれは全部の交流センター回することは可能かどうかわかりませんが、ある意味、交流センターの設置それから大学、これらを視野に入れたルートの見直しを今現在考えております。

それから、交流センターでその地域づくり交付金の中で、この事業をそれぞれの小学校区でできないかということで、実際21の小学校区、回らせていただいて、そういうお話が出たところは、2カ所程度あったかと思えます。その地域の抱えておる問題、課題がそういう交通弱者対策であれば、この地域づくり交付金を使ってやっていただいて十分結構ですよというような御返事をした記憶もございますので、その辺は今後。ただ事務的にそこがもう交流センターがその小学校区といえども窓口となるようなことになると、非常に事務的なことが非常に多岐にわたりますので、館長さんセンター長と、事務局職員2人でできるのかどうかというところがちょっと、ちょっと不安に感じております。

○熊田 司委員長 北村委員。

○北村利夫委員 いや、ただこれを利用して、このバスを利用して云々じゃなしに、いわゆる民間のタクシー会社等あるわけやから、そこらとのタイアップをしてその地域ごと

にな。そやからそういう窓口になれへんかなと、そうしたらいわゆるドア・ツー・ドアとの兼ね合いもできてくるいろんな組み合わせの中でできるやと思うんやけども、ただ一つのぼーっと体系がこの5ルートで回っていくんやとなったら二重投資になってくる部分があるんで、そこらのいわゆる交流センターの自主性をどこまで見れるんかどうかなということやと思うんよね。そこで必要などが、それに乗り出す。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 交流センターの地域づくりにつきましてはもうそれぞれの地域で、喫緊の課題・問題について、皆さんで協力してやっていただければ結構ですというようなお話をさせていただいておりますので、特段大きな縛りは持っておりません。

それから、ルート変更の考え方でございますが、今委員さんがおっしゃったように、幹線につきましては、当然、停留所を回って行くバスというのは、これは今までどおり何台かで運行はしていく予定です。ただ、俗に言う交通の空白地帯、幹線道路からあふれたところ、それをどうカバーするのか。今いろんな陳情をもいただいております。うちの集落にバスがけえへんのはおかしいと。ぜひ通してくれと。じゃあお客さんはニーズはあるんですねと、そら通ってからしかわからんというような、回答でその要望にこたえることもなかなか難しいところがあるんですが、俗に言う交通の空白地帯、幹線道路のバスも何も通ってないところについては、今言う交流センターでデマンドをやっていただくのか、あるいは市としてデマンドをタクシー会社をお願いして、空白地帯を埋めていくのか、その辺は今後もう来年の4月ですので、そろそろ結果を出す必要があるんかなというふうに思います。

○熊田 司委員長 柏木副委員長。

○柏木 剛副委員長 デマンドという話はね、やっぱり今はその西淡から榎列通って市通って八木通って、広田通ってしとる。これ余りにも広いんですよ。例えば今、北村委員が言われたみたいに、例えば八木なら八木で弱者たくさんおるんですよ。行きたいところは、ただそれだったら八木の場合12部落あるんですけど、その公会堂に集まって何時何分に集まるだったら、それを回るのそんなに抵抗なく回ってパーティ行くとかね。それは抵抗ないと思うんです。だから全体で考えるよりは、地域で考えるということのほうが、よっぽど現実的な運行ができるし乗ってる人もそんなに無駄な足、無駄にぐるぐる回ってるという感じしないんじゃないかという。これも結構大事なことじゃないかというふうに思うんですけどね。多少馬回からずっと回ったとしても、同じ八木の中だったらというそういう感じも多分そうそうあるような気がするんでね。私はぜひ地域地域でそういう独自の

目的別のバスを走らせたのが、だったらね、そんなに無駄がないような格好でいけるんじゃないかと。一つの方向じゃないかというふうに私は思ってます。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 今地域公共交通会議には、運送業者というのは淡路交通が入っておるんでしょうか。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 淡路交通さんと受託をいただいておりますみなと観光さん、それとタクシー協会の会長さんに入っております。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 タクシー協会が入っているんだったら、それでええんですけど。結局、デマンドにしたときに、民業圧迫みたいな話との兼ね合いやと思うんですよ。ただ、そこもうまく業界と話ができて、さっきちらっと出たように、タクシー会社をお願いできるような分野であったら、それはそれでお互いにプラスでないかなというふうに思うので、まあ言うたら旧町単位ぐらいに営業所があって、今たまたまタクシー利用するときに、配車待ちしてたら、電話番号の人がもう要するに頭の中でルート描いて、どこの車どこおりたら次いけというような話をしよるわけで、やっぱりそこら辺に任せれば、大きなシステム入れなくても、旧エリアぐらいの旧町エリアぐらいの中で、例えばタクシーの会社が請け負ってその配車とかを、やるというふうな受付するというふうなことであったら、十分何か大きなパソコンとかコンピューターのシステム入れなくても、できそうな気もするんで、そこでその中型車というか何人か乗れるようなちょっとワゴンタイプのものとかですね。そういう協議をタクシー会社とすべきでないかなというふうに思うんで、ぜひ投げかけてみてまずちょっと協議を願いたいと思うんですけど、どうですか。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 一度協議はしてみたいと思います。ただ、今のコミバスの運行形態とデマンド、これの基準単価1時間当たりの基準単価、運行単価ですね。それがデマンドと今の路線バス形態とかなり差があるというようなことで、私どもは当然費用対効果も考えながら、新しいシステムをつくっていきたい。当然、幾らかの上乗せはこれ

はもう仕方のないことだと思うんですが、それを最小限に抑えてなおかつ、利用者にとっては便利になったと言われるようなシステムをつくっていきたいというふうに思っております。

○熊田 司委員長 原口委員。

○原口育大委員 当然、そうなんです。ただ運ぶ乗客の数にその経費かけて、経費が全体の経費が出てくると。今例えば運ぶ人数が何ぼかあって、その空で走らせとる部分も何ぼかあって、それで全体の経費が出よるわけですから、やっぱり1回それは分解して積算してみんと、今言う単にデマンドで走らせるのと路線バスで走らせるので、単価が違うというのはわかりますけども、それは1回シミュレーションして乗客数掛ける単価で計算してみないと、総額に部分ではちょっとまだ検討の余地があるんじゃないかなというふうに今、思います。

○熊田 司委員長 ほかに、ございませんか。  
蛭子委員。

○蛭子智彦委員 さっきの話の続きなんですけども、以前総務で視察に行ったときに、そのタクシー会社との関係プレーであったり、観光バス会社やあるいは普通の路線バス会社と3セクをこしらえて、運営しているような自治体もあるように聞いとるんですけども、幅広い選択肢の中で、そのそういうシステムを組み立てていくということが大事なかと。やっぱり今ある民間支援を活用しながらやると、競争ということが比較的起こりにくいんじゃないかと、そういう視点に立って、何よりもその利用者の利便性を図るといふそういうシステムに対する考え方とかこれがあるんじゃないかなというふうに思っとるんですけども。そういうことまで掘り下げた議論を、していただけたらというふうに思うんですけどいかがでしょうか。

○熊田 司委員長 市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎） 当然、今からの議論になってくるんですが、委員さんからいろいろ御提言をいただいたことも、当然、協議の議論の中には入ってくるであろうと。多額の費用を投じてシステムを組まないでも、今ある業界団体の皆さんに御協力いただく方法も、これも一つの方法かと思しますので、その辺については、今後詰めていきたいというふうに思います。

○熊田 司委員長           ほかに、柏木副委員長。

○柏木 剛副委員長           もう少し。このバス停の話ですけどね。私はちょっとやっぱり、さっきもちょっと出たかもわからないですけど、各地域には公会堂があるんですよ。ぜひ公会堂に行くのは大体住人は抵抗ないんです。そこが待合場所何か雨が降っても、何があっても、バス待てるんですよ。だから公会堂というやつがないんですよ。本当にそういうのを拠点とした、使うのが、もっと賢いやり方がないかという私は思うんですけど、どこかまで行くというよりは公会堂へ行く、割と余りぶらぶらしてどこの人でも行きやすいんですよ。で、集まりやすいということもあるんで、その1点だけちょっと一つぜひ。

○熊田 司委員長           市長公室長。

○市長公室長（中田眞一郎）       今の路線バス、停留所を置いてという形態の中では、それぞれの集落の集会所を停留所にするところについては、少し無理があるのかなど。わざわざ遠回りしていく必要があると、いうようなところも、ございますので、今委員さんから御指摘いただいたようなことについては、もしもデマンドというようことになりますと、当然、そのデマンドの停留所、待ち合わせ場所については地域の集会所というところになっていくのかなという感じはしております。

○熊田 司委員長           よろしいですか。

では、ほかに質疑はございませんか。

それでは質疑がないようですので、これで重点調査を終わります。

閉会のあいさつ、柏木副委員長。

○柏木 剛副委員長           本日、どうも長時間にわたって、ありがとうございました。

これもちまして閉会します。

（閉会 午後 3時40分）

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成24年5月7日

南あわじ市議会総務常任委員会

委員長 熊 田 司